

大地の園舎周囲は、たくさんの薪が積み重なり、焚き火の煙がほぼ毎日、あちこちからあがるようになりました。この夏の毎日の猛暑が嘘のように、早朝には、吐く息が白くなるような季節になりました。

ここ 10 日ほど前から始まった森林伐採作業。大地の駐車場付近から、北信五岳の戸隠飯綱黒姫の景色が見れたらどんなに素敵な丘になるだろうと考えました。そして、森の恵み、循環に感謝して、薪作りにも取り組もうと。

しかし、樹木とは凄いものです。見た目と実際の高さ長さ太さなどは桁違い。実際に伐採された樹木の大きさや量には、想像もできなかった凄さです。こんな狭い森から、こんなに巨大な樹木が出てくるのか。そして、それを玉切りにしていくチェーンソーや機械類も、プロ級のものでなくてはとても処理する事はできないと。

プロ伐採の大地 OG の父親 加島さんの仕事を見ていると、半日での実働の伐採時間は、僅か 2 時間足らず。その中で、20 分ぐらいやっては休みのインターバル。最初はなぜずっと半日やり続けられないかと単純に思っていました。しかし、自分でやってみると、見た目と実際は違う。緊張感が続かない。チェーンソーの振動と音、何よりも**危険な緊張感**の連続で精神的な疲れがどんどん蓄積していきます。それでも、何とか無事、子どもたちのお陰でお祭りに一段落つききました。

現場には、ショベルカーが 3 台、薪割り機が 2 台。毎日 子どもたちが弁当持ちでやって来て、軽トラに薪積みをして、自由にショベルカー 3 台に乗り放題。そして、薪割りの端材で、焚き火を起し、好き放題に火を燃やしている。その横で、リンゴ箱積み木で遊ぶ。リンゴの実る木の下で、リンゴや柿などをほおぼる子どもたち。あの広い土の上で、毎日、好き放題に遊ぶ子ども。いつ見てもショベルカーの運転席には、3, 4 人の子どもが群がっているし、焚き火には、いつもあちこちからたきぎを集めてきて、どんどん燃やしている。こんな光景は、大地だけでしょ。一般的な**安全とかけ離れています**。でも、子どもたちは、動いているショベルカーや機械には絶対近寄らないし、身を守る術を感覚で理解しています。それは、実際に、作業現場を見ているからです。幼児と言えども、素晴らしい賢さを持っています。理論や言葉ではなく、全て実際 実体験です。それをもたらすのは、パソコンやスマホに向かう大人ではなく、手足を使い身体を使い汗を流す、労働する大人の姿だと信じています。



【稲刈り】

9 月中旬からの旅行で、今年の稲刈りは自分達でできないので、懇意にしている隣家の大型コンバインにお願いした。2 時間もあれば簡単だと言われて、安心して出かけた。旅行先からも、稲刈りは済んだ？と聞いてもまだというガーくんからの返事。結局帰国してもまだ済んでいない。ようやくコンバインが田んぼにスタンバイしたが、一週間過ぎた。

そして、ようやく、本日刈り取る（隣家は 大農家で、リンゴ米キノコで大忙しだった）と言う連絡で安堵して、森林伐採作業に精を出していた。夕方、くたくたに疲れている中で、隣家のおじさんがやって来た。終了の嬉しい連絡と思いきや、「田んぼが水でぬかり、コンバインが入れない」目の前真っ暗で、疲労と落胆で倒れそうになった。「もう稲はそのままにしておくか、ビーバーで草刈りのようにしておくしかないな」と言われた。全水田の三分の二を占める広さの水田の米。完全に米が足りず今年を買うしかないか！！（絶望）。この時は、連日のまだまだ続く森林作業の疲れで、**手刈り作業**なんて頭に全くなかった。近年 あれだけの広い面積の手刈り稲刈りなんて、見たことも聞いたこともやった事もなかったし、どれほどの重労働しかも歩くだけで足が埋まる泥沼作業が過酷なことか。腰も心配だ。

今思い出して、どうして手刈りを思い立ったかわからない。自分の小さい頃は当たり前だった。一週間ぐらいかけて、近所の人達が協力しあって作業していた。長男家族も、同じように家族総出で、一週間間位やり続けている。妻は、「少しでもできるところまでやろう 私は稲刈りは好きだし、貴重な無農薬無肥料米だし」そして「稲運びは スノーソリを使えば効率がいい」というアドバイスを頂いた。

そして、感謝に絶えない保護者会の午後の稲刈り作業の光景は、今でも忘れない。大人子どもの活気のある動きと声。そして、どんどんパッチワークのように、水田の稲があちこち刈り取られていく光景。涙と感謝と人間のエネルギーと力への畏敬の念が絶えなかった。大人のみならず、それ以上に、子どもたちのエネルギーに感謝感激の連続だった。やはり、諦めずにはできると、この光景を見て確信したし、最後までやり遂げなければならぬと確信した。

翌日の環境整備日の稲刈り。スノーソリにリンゴ箱を針金で装着した特殊マシンを 10 台用意した。そして、朝 6 時からの稲刈り。きつと近所の人達も度肝を抜かれたであろう（笑いのものだったかもしれない）。水田のぬかるみは、素足では入れないほど冷たかった。まだ日が登る前だったから、前日のように活気が溢れるまで時間がかかり、黙々の作業が続いたが、暖かくなるにつれて、調子が出て来た。11 時半過ぎに一旦終了。本当に感謝感激で、先が見えた瞬間であった。本当ありがとうございました。

午後は、夫婦と長女の夫と長男の孫とでの作業を続け、午後 3 時過ぎから、夫婦だけとなった。ラスト 1 時間半、2 人で様々な思いを胸に刈り続け、5 時 無事達成感を味わった。最後の 2 人だけの作業時間は、ありがたいものであった。大勢の人達への感謝、子どもたちのエネルギーの底力と畏敬の念、そして、一年食べるお米を、現代では、1 日足らずで機械で仕上げてしまう現実の効率性。様々な思いを、刈り終えた広い田んぼで佇みながら思いにふけた。

そして、刈り終えた稲を倉庫に運び込んだ。そこで再び現実に戻る。これだけの積み上げられたバラの稲をひもで縛り上げねばならない作業が待ち受けていると。明日は雨だから、倉庫に入れておくことを想定したので、明日は早朝から丸ける作業をしようと家へ戻り、2 人して、8 時前には眠りについた。それにしても、森林作業に加えて、この数日間、青ちゃんは夜 8 時前には眠り、朝は 3 時から作業開始する生活、まだまだ時差が連続している・・・

それでも面白い毎日。翌日の日曜日、早朝から 2 人で雨の中、倉庫に座り、音楽をかけながら、雨音を聞きながらひたすら稲を丸め結びつける作業。雨のせいで、近所では農作業もなく人出はなく静か。！？ 午後一時位までやり遂げ、これなら、あと二日間位で終わるだろうと確信して、この日は一旦終了。温泉で久しぶりに休もうと午後は出かけた。

翌日 月曜日 若いときにお世話になった相模原の叔母の告別式参加の予定。連日の作業での疲れ具合で、新幹線か車で行くかと迷い、寸前まで新幹線で行こうと思っていた。温泉に入り、1 時間ほど仮眠して起きると、2 人で大丈夫、好調と言うことで、急遽 車に変更。明日は、七時頃出発すれば 余裕でお昼に着くという段取り。それでも、妻は、明日の朝のおにぎりやお茶の準備をして眠った。ところが、翌朝 2 人して 4 時過ぎには目が覚めてしまった。どうしようか迷い、それじゃ今から一般道を通って行けるところまで行こうと決定。妻は おにぎりとお茶やコーヒーを保温ボトルに入れて準備。青ちゃんは、きつと菅平や軽井沢あたりは紅葉が綺麗だろうと思い、秘かに パーナーやフライパン そして 卵やソーセージや果物などを準備して、紅葉見物しながら朝食を楽しもうと算段した。星空のもとを出発して、予想通り朝日に照らされた紅葉を、菅平や軽井沢で満喫しながら、碓氷峠を下り高崎まで一般道を走った。（このルートは 8 年前 妻と友人で、自転車 1 日で走って来た思い出のルート かつ、5 年前に 2 人の小学生を連れてガー君と東京まで自転車走ったルートでもある）この日は往復 600 キロ走った。

翌火曜日、朝 6 時から稲作業開始。通り行く小学生達が怪訝に見ていく中、9 時過ぎには無事終了した。まだまだ作業は続く。子ども祭間近の駐車場には、三本の太木。朝 4 時過ぎから 2 人でヘッドライトを灯しながら薪割り作業。こちらも、誰も通り過ぎる人はいないが、見た目には かなり怪しい光景であっただろう。まあ、とにかく、売れっ子芸人並に働いた。これも、三週間も楽しく旅をしてきたつけが回ってきたのだろう。

旅は トラブルがかけがえのないドラマと思い出を生み出すが、今回の稲刈りも引き続きドラマが続いた事に感謝。飯綱町で、最後の手刈り稲刈りであり、季節外れの脱穀作業となる歴史が刻まれることだろう。皆さまに感謝！！